

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成30年度研究開発実施報告書

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

研究開発領域

「妊娠期から虐待・DVを予防する支援システムの確立」

藤原武男
(東京医科歯科大学、教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2-1. 研究開発目標	2
2-2. 中間達成目標	2
2-3. 実施内容・結果	3
2-4. 会議等の活動	10
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	11
4. 研究開発実施体制	11
5. 研究開発実施者	14
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	16
6-1. シンポジウム等	16
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	16
6-3. 論文発表	16
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	16
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	17
6-6. 知財出願	17

1. 研究開発プロジェクト名

妊娠期から虐待・DVを予防する支援システムの確立

2. 研究開発実施の具体的内容

2-1. 研究開発目標

児童虐待を未然に防ぐため、妊娠届けを活用した妊娠期からの、市町村行政が活用可能な、保健師およびNPOによるハイリスク妊婦支援アプリを開発する。また、その前提となる妊娠届けおよび健診データの電子化の支援を行う。具体的な成果としては行政・保健師（公）とNPO（私）が、個人情報に同意に基づき共有し、セキュリティーにも配慮した上で、虐待・DVハイリスク群（私）にアプローチし、これまでになかった具体的な支援内容を搭載し、データをモニタリングできるアプリによって支援を行う。この保健師支援についての研修システム等も構築し、持続可能性の高いシステムをめざす。さらにそのデータをフィードバックさせることにより虐待予測アルゴリズムおよび誰にどんな内容の支援を行えば効果的か、についての精緻化をおこなえるシステムを成果とする。

2-2. 中間達成目標

1. 足立区における妊娠届データを用いた虐待・DVハイリスク予測アルゴリズムの作成

足立区における平成28年度4月 - 9月までの6か月分の電子化された妊娠届（N=2500）と3 - 4か月健診のデータ（おおよそ平成29年度4 - 9月に実施）をリンクし、妊娠届の情報から3 - 4か月健診で把握される虐待（揺さぶり等）を予測するアルゴリズムを作成する。

達成状況：概ね達成した。

2. 愛知県における妊娠届データを用いた3歳までの虐待予測アルゴリズムの作成

代表者がこれまで実施してきた、愛知県における妊娠届と3 - 4ヶ月児健診、1歳半児健診、3歳児健診データ、要保護児童対策協議会登録データをリンクし、都市部（名古屋市等）および郊外における妊娠届からの虐待を予測するアルゴリズムを作成する。

達成状況：概ね達成した。

3. 保健師支援アプリの開発

森田プロジェクトと連携し、保健師が支援を行うためのコンテンツを搭載し、保健師の支援内容データについても蓄積することのできるアプリのa版を開発し、足立区における活用経験を踏まえて行政内のデータリンクや個人情報セキュリティーの問題点を修正したb版まで開発する。

達成状況：概ね達成した。

4. 児童虐待予防のための個人情報共有に関する国際比較

- ① 日本における児童虐待に関する個人情報の公／私における共有について文献調査および足立区における事例について問題点および解決策をまとめる。特に、

公と私の個人情報の共有の合意内容および合意のあり方、そして行政と NPO の個人情報の共有のあり方についてまとめる。

達成状況：概ね達成した。

- ② アメリカにおける児童虐待に関する個人情報の公／私における共有について文献調査または民間団体であるニューヨーク児童虐待防止協会においてインタビュー調査を行う。

達成状況：文献調査のみ実施した。

- ③ イギリスにおける児童虐待に関する個人情報の公／私における共有について文献調査または民間団体である全国児童虐待防止協会においてインタビュー調査を行う。

達成状況：文献調査のみ実施した。

5. 虐待の医療的コスト試算

わが国における入院治療に至った重度の児童虐待症例について、その医療的コストを包括医療費支払い制度（Diagnosis Procedure Combination, DPC）データまたはレセプトデータを用いて算出する。国際疾病分類第10版（ICD-10）によるコードを用いて身体的虐待・ネグレクト・性的虐待が原因でケガや疾病があるとされる子どもについて、入院日数および治療費を算出する。

達成状況：実態把握にとどまった。

6. 保健師研修のための虐待予防パッケージ教材の作成

森田プロジェクトと連携し、妊娠期からの虐待予防（本プロジェクト）および重症化予防（森田プロジェクト）を含む虐待予防パッケージとした教材を作成し、ホームページで広く周知し入手可能なものとする。

達成状況：森田プロジェクトとの連携が実施できなかったため、進めることができなかった。

2-3. 実施内容・結果

(1) 各実施内容

今年度の到達点①

足立区において、保健師支援アプリ「そだつWA」を中等度のハイリスク妊婦への家庭訪問等に活用し、その内容を発信するとともに、効果検証を行う。

実施項目①-1：実施デザインの確定

昨年度から引き続き、ハイリスク妊婦への保健師支援アプリ「そだつWA」の活用を続けるとともに、中等度リスクへの妊婦への活用については実施する保健センターと実施しない保健センターで比較するデザインで実施した。

実施項目①-2：保健師支援システム「そだつWA」の実施状況の確認

介入のQuality control のため、定期的に現場の保健師との打ち合わせをもち、実施状況を確認した。

実施項目①-3：妊娠届および3ヶ月健診データの突合

効果検証のための妊娠届および3ヶ月健診データの突合状況を確認した。

実施項目①-4：保健師支援システム「そだつWA」の要保護児童対策協議会における

活用

母子保健システムと要保護児童対策協議会のデータのリンクが可能かについて状況を確認した。

実施項目①－5：効果検証のための統計解析

①－3で得られるデータとそだつWAで得られるデータの突合状況について確認した。

実施項目①－6：医療コストおよび社会的コスト便益試算

DPCを用いた「虐待による頭部外傷」の医療コストを算出した。

実施項目①－7：そだつWAの国内外における発信

国内外の疫学・公衆衛生学及び児童虐待関連の学会で「そだつWA」を発表した。

今年度の到達点②

保健師支援システムの応用的社会実装：助産師外来における活用による虐待予防効果検証

実施項目②－1：コンテンツの細分化

個人のIDを入力することなく閲覧できる媒体としてWebでの媒体に展開し、コンテンツの細分化により見たい内容にすぐにアクセスできるようにした。

実施項目②－2：産科病院への横展開

大岡PJと連携し、京都の産科を有する病院での「そだつWA」の横展開を実施すべく協議を行なった。

さらに、産科病院ではないが、東京医科歯科大学の看護学における講義で「そだつWA」を活用した。

それに関連して、「そだつWA」の書籍化についても書店との打ち合わせを進めた。

今年度の到達点③

愛知県における妊娠届から3歳児健診までの虐待予測アルゴリズムの精緻化

実施項目③－1：愛知県データの解析

実施内容

愛知県における妊娠届から3歳児健診までのデータを用いて、虐待を予測するアルゴリズムをさらに精緻化した。

実施項目③－2：妊娠届の虐待予測アルゴリズムの社会実装化

実施内容

愛知県において、③－1で精緻化したアルゴリズムを用いたハイリスク妊婦の推定システムの構築を試みた。

今年度の到達点④

児童虐待予防のための個人情報共有に関する国際比較

実施項目④－1：児童虐待に関する個人情報共有に関する国際比較

実施内容

アメリカまたはイギリス、オーストラリア等において、児童虐待に関する個人情報の公／私における共有および同意について文献調査をさらに深めた。公的機関とNPOとの個人情報の共有のあり方についても検討した。

今年度の到達点⑤

個人情報セキュリティの検討

実施項目⑤－1：中等度のハイリスク妊婦への家庭訪問または窓口における介入における個人情報保護のあり方に関する検討

実施内容

足立区において、保健センターで実施する中等度のハイリスク妊婦への家庭訪問または窓口における介入について、その個人情報保護のあり方に関する検討をした。

(2) 成果

今年度の到達点①

足立区において、保健師支援アプリ「そだつWA」を中等度のハイリスク妊婦への家庭訪問等に活用し、その内容を発信するとともに、効果検証を行う。

実施項目①－1：実施デザインの確定

実施内容

足立区における5つの保健センターのうち、2つの保健センターでアプリを活用した支援を実施し、他は実施せず、通年での実施による虐待（3ヶ月健診時に把握できる「激しい揺さぶり」）の減少効果を確認できるシステムを構築した。

本実証研究に当たって、調査フィールドの足立区にて保健師が妊婦宅を訪問し、タブレット端末使用し保健師支援アプリを利用した調査を行うが、その際、データの同期のためにSIMカードを用いた。さらに、東京医科歯科大学においてもデータの同期のため安定した通信環境が必要不可欠であり、モバイルWiFiルーターを1台レンタルした。

さらに、そだつWAの実施について保健師および妊婦に直接、アンケートを実施し、満足度を確認する予定であったが、現場の保健師との協議により実行可能性が低く、実施できなかった。

実施項目①－2：保健師支援システム「そだつWA」の実施状況の確認

実施内容

アプリを使用している保健センターと定期的な会議（3ヶ月に1回程度）を持ち、使用状況を確認した。

実施項目①－3：妊娠届および3ヶ月健診データの突合

実施内容

妊娠届と3ヶ月健診データを突合するシステムを構築した。

実施項目①－4：保健師支援システム「そだつWA」の要保護児童対策協議会における活用

実施内容

ハイリスク妊婦について、要保護児童対策協議会と連携した場合に「そだ

つWA」で集めた情報がどのように活用されているのかについて検討する予定であったが、母子保健データと要保護児童対策協議会データは異なる部署で管理されており、その突合は容易ではないことが判明し、今年度はできなかった。

実施項目①－5：効果検証のための統計解析

実施内容

①－3で得られたデータについて、アプリを使用した保健センターと使用しなかった保健センターで3ヶ月時の虐待発生率を比較する予定であったが、平成29年度にアプリを使用しており、平成29年度に妊娠し3ヶ月検診を受診するまでの時間を考慮するとそのデータが揃うのが平成31年度に入ることが判明し、平成30年度には解析ができなかった。

実施項目①－6：医療コストおよび社会的コスト便益試算

実施内容

実施項目①－3にて検証した介入効果について、DPCデータ等を用いた医療コストおよび乳児期における虐待（特に揺さぶられ症候群）における社会的コストを算出する予定であったが、まずは医療費の算出を行なった。

実施項目①－7：そだつWAの国内外における発信

実施内容

- ・前年度に開発した「そだつWA」の内容について、国内においては日本公衆衛生学会学術総会および日本子ども虐待ネグレクト防止学会（JaSPCAN）において発表した。
- ・さらに、アメリカで先進的な家庭訪問による虐待予防を実施しているDuke大学のGoodman博士をJaSPCANに招聘した。そしてGoodman博士と「そだつWA」の有効性について議論した。
- ・また、国際子ども虐待ネグレクト防止学会（ISPCAN）において「そだつWA」を発信した。
- ・さらに、「そだつWA」の根幹であるハイリスク妊婦の予測、および妊娠中のDV予測アルゴリズムについて欧州疫学会において発表し、疫学的に確かであることを確認した。また、妊娠中のDV予測アルゴリズムについては国際誌に発表した。

今年度の到達点②

保健師支援システムの応用的社会実装：助産師外来における活用による虐待予防効果検証

実施項目②－1：コンテンツの細分化

実施内容

「そだつWA」で作成したコンテンツを、様々な「場」（たとえば産科外来など）で活用できるように、また修正や追加がすぐにできるように、コンテンツをWebなどの汎用性の高い媒体を用いたものに変更し、細分化して使いやすくすることを実施した。

実施項目②－2：実施デザインの確定

実施内容

大岡PJと協力し、京都市等の産科医療機関において助産師によるハイリスク妊婦支援にこのPJで開発した「そだつWA」のコンテンツを応用できるように調整し、採用して頂けることになった。

実施項目②－3：助産師による「そだつWA」活用による虐待予防効果検証研究の実施

実施内容

産科病院で「そだつWA」を実施する方向で現在調整中である。効果検証としては看護部が意欲的であり、看護部における研究として位置付けていくと実証可能性が高いことがわかった。

今年度の到達点③

愛知県における妊娠届から3歳児健診までの虐待予測アルゴリズムの精緻化

実施項目③－1：愛知県データの解析

実施内容

愛知県における妊娠届から3歳児健診までのデータについて、データクレンジングを進め、妊娠届によって3ヶ月、1歳半、3歳児における虐待を予測するアルゴリズムをさらに精緻化した。

実施項目③－2：妊娠届の虐待予測アルゴリズムの社会実装化

実施内容

愛知県において、③－1で精緻化したアルゴリズムを用いたハイリスク妊婦の推定システムの構築を試みる予定であったが、担当者の異動などによりスムーズにはいかなかった。

今年度の到達点④

児童虐待予防のための個人情報共有に関する国際比較

実施項目④－1：児童虐待に関する個人情報共有に関する国際比較

実施内容

アメリカまたはイギリス、オーストラリア等において、児童虐待に関する個人情報の公／私における共有および同意について文献調査をさらに深めた。足立区で実施している、NPOを活用した子育て支援事業「聞かせて子育て」については、個人情報を行政からNPOに提供する上で同意が必要であることから申請主義となっており、そこが律速となってNPOの活用が進んでいないことがわかった。

今年度の到達点⑤

個人情報セキュリティの検討

実施項目⑤－1：中等度のハイリスク妊婦への家庭訪問または窓口における介入における個人情報保護のあり方に関する検討

実施内容

足立区において、保健センターで実施する中等度のハイリスク妊婦への家

庭訪問または窓口における介入について、その個人情報保護のあり方に関する検討した。その結果、窓口での個人情報の入力是他者による“覗き見”や“入力事項の消し忘れ”といった非デジタル的な要因によるリスクを防ぎきれないということが懸念事項として上がった。

(3) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- ・当初よりやや遅れていると考えている。その理由として、足立区の保健師に「そだつWA」を受け入れてもらうことに予想以上に時間がかかったこと、また効果検証は生後3ヶ月であり、妊娠期からの介入研究の場合には時間がかかること、そして行政のデータは電子化されていてもそのデータを抽出して利用できるようにするのは行政の方々であり、そこに律速があること、といった理由が挙げられる。
- ・得られた成果としては、開発した「そだつWA」が受け入れられたこと、そして概ね好評であったことである。定量的な評価はできていないが、保健師の話によれば妊婦の満足度は高いとのことであった。
- ・次年度（2019年度）は、「そだつWA」による介入群と対照群との比較からDVの影響及び虐待の予防効果を定量的に検証し、費用対効果分析を行うことで、さらに横展開していくためのエビデンスを創出したい。

(4) スケジュール

実施項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
		進捗アセスメント		
1. 足立区における妊娠届データを用いた虐待・DVハイリスク予測アルゴリズムの作成	←	DV	虐待 ←	→
2. 愛知県における妊娠届データを用いた3歳までの虐待予測アルゴリズムの作成	←			→
3. 保健師・NPO支援アプリの開発	←		→	
4. 足立区における社会実装化			←	→
5. 虐待予防パッケージ教材を用いた保健師研修			←	→
6. 個人情報セキュリティの検討	←			→
7. 児童虐待予防のための個人情報共有および同意に関する国際比較	←	日本	米国 英国	まとめ
8. 虐待の社会的・医療的コスト試算と虐待予防支援パッケージの費用対便益分析	←	医療コスト 試算		費用対便益

2-4. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
H30年4月12日	開発アプリに関する打ち合わせ	足立区役所	開発アプリの進捗及び動作確認、運用内容の検討
H29年5月18日	開発アプリに関する説明会	足立区 東部保健センター、竹ノ塚保健センター	開発アプリ利用者(足立区保健師)向け使用方法説明会
H30年6月12日	開発アプリに関する打ち合わせ	東京医科歯科大学	アルムと開発アプリの検討
H30年7月4日	学会発表	フランス・リヨン	妊娠届データを用いたDV予測アルゴリズムの発表および意見交換
H30年7月17日	開発アプリに関する打ち合わせ	東京医科歯科大学	アルムと開発アプリの検討
H30年8月2日	開発アプリに関する説明会	広島	開発アプリ利用検討機関向け説明会
H30年9月4日	学会発表	チェコ・プラハ	第22回国際子ども虐待防止学会において発表及び情報収集
H30年9月20日	開発アプリに関する打ち合わせ	足立区役所	開発アプリの進捗及び動作確認、運用内容の検討
H30年10月24日	学会発表及び研究打ち合わせ	福島	第77回日本公衆衛生学会において開発アプリに関する発表、情報収集、論文文化のための打ち合わせ
H30年11月22日	開発アプリに関する打ち合わせ	東京医科歯科大学	開発アプリの進捗確認及び修正内容の検討
H30年11月23日	平成30年度領域全体会議	JST 東京本部	領域関係者間での研究報告及び情報交換等
H30年12月1日	日本子ども虐待防止学会第24回学術集会おokayama大会	岡山	国際シンポジウムの開催
H30年12月7日	PJ戦略会議	東京医科歯科大学	PJリーダー間での進捗確認及び次年度計画の検討
H30年12月17日	開発アプリに関する打ち合わせ	足立区役所	開発アプリの進捗及び動作確認、運用内容の検討
H31年2月8日	開発アプリに関する説明会	足立区 中央本町地域・保健総合支援課	開発アプリ利用者(足立区保健師)向けカテゴリ別説明会
H31年2月12日	開発アプリに関する	京都	開発アプリ利用検討機関向け説明

	する説明会		会
H31年3月12日	妊娠届データに関する打ち合わせ	千葉県保健センター	開発アプリ利用検討機関向け説明会
H31年3月12日	妊娠届データに関する打ち合わせ	足立区役所	開発アプリの進捗及び動作確認、運用内容の検討

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

足立区のハイリスクアプローチとして実際に保健師がハイリスク妊婦を支援する際に活用されている。また、そだつWAをID及びパスワードによってWeb上で閲覧できるようにし、京都市の産科病院における助産師外来での活用も検討されている。さらに看護学生への講義での活用も試験的に行われている。また、その書籍化も検討している。そしてこの内容を元に、東京都の大学提案事業として採択された「けんこう子育て・とうきょう事業」においてもそのコンテンツが活用される予定である。

4. 研究開発実施体制

(1) 支援システム開発グループ（藤原武男）

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
国立成育医療研究センター研究所 社会医学研究部

実施項目：保健師支援アプリ効果検証デザインの確定

本グループは、足立区と協働し、社会実装化すべくその効果を検証するための研究デザインを確定させる。

実施項目：保健師支援システムの実施状況の確認

本グループは、足立区における保健師支援システムの実施状況を確認する。

実施項目：妊娠届および3ヶ月健診データの突合

本グループは、足立区における妊娠届と3ヶ月健診データの突合できるシステムを構築する。

実施項目：効果検証のための統計解析

本グループは、上記システムおよび保健師支援システムから得られたデータを解析し、その効果検証を行う。

実施項目：保健師支援システムの助産師外来への活用に向けてコンテンツの細分化

本グループは、保健師支援システムを助産師外来でも応用できるようにコンテンツの細分化を行う。

実施項目：助産師外来における活用による虐待予防効果検証実施デザインの確定および実施

本グループは、助産師外来における活用による虐待予防効果検証実施デザインを確定させ、実施する。

実施項目：虐待予測アルゴリズムの精緻化

本グループは、愛知県において得られた妊娠届の情報から得られる要因から3か月、1歳半、3歳児における虐待を予測するアルゴリズムの精緻化を行う。

実施項目：国内・国際発信

本グループは、本プロジェクトの成果を国際学会において発信し、その学術的妥当性について確認する。また、虐待予防システムについて先進的な米国ノースキャロライナから研究者を招聘し、社会実装化について意見交換を行う。

(2) 個人情報法制度グループ (横野恵)

早稲田大学 法学部

名古屋大学 経済学部

実施項目：アプリ使用に伴う個人情報の共有に関する問題点

本グループは、足立区における児童虐待に関する個人情報の公／私における共有および同意についてアプリ使用をケーススタディとしてその問題点および解決策をまとめる。

実施項目：児童虐待に関する個人情報共有に関する国際比較

本グループは、アメリカまたはイギリスにおいて、児童虐待に関する個人情報の公／私における共有および同意について文献調査またはインタビュー調査を行う。

(3) 個人情報セキュリティーグループ (猪俣敦夫)

東京電機大学 未来科学部

実施項目：保健師アプリの改善点の集約

本グループは、足立区で保健師支援アプリを使用した際の、特に中等度リスクの妊婦への介入における個人情報の共有、同意、セキュリティーに関する問題点を明らかにし、どのようにすれば改善できるかをまとめる。

(4) アプリ開発グループ (坂野哲平)

株式会社アルム

実施項目：保健師アプリの改善

本グループは、保健師支援アプリを改善できる範囲で改善する。

(5) コスト試算グループ (星野崇宏)

慶応義塾大学 経済学部

実施項目：保健師支援システムのコスト便益試算

5. 研究開発実施者

支援システム開発グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
藤原 武男	フジワラ タケオ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	教授
伊角 彩	イスマ アヤ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研科	プロジェクト助教
土井 理美	ドイ サトミ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	プロジェクト助教
大澤 万伊子	オオサワ マイコ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	研究支援者
長沼 千加子	ナガヌマ チカコ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	研究補佐員
木津喜 雅	キヅキ マサシ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	講師
森田 彩子	モリタ アヤコ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	助教
谷 友香子	タニ ユカコ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	特別研究員
松山 祐輔	マツヤマ ユウス ケ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	特別研究員
舟越 優	フナコシ ユウ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	大学院生
福屋 吉史	フクヤ ヨシフミ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	大学院生
三木 崇弘	ミキ タカヒロ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	大学院生
三瓶 舞紀子	サンペイ マキコ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	大学院生
伊藤 加奈子	イトウ カナコ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	大学院生
那波 伸敏	ナワ ノブトシ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	ポスドク
山岡 祐依	ヤマオカ ユイ	東京医科歯科大学	大学院医歯学 総合研究科	非常勤講師
加藤 承彦	カトウ ツグヒコ	国立成育医療研究 センター研究所	社会医学研究 部	室長

越智 真奈美	オチ マナミ	国立精神・神経医療研究センター	自殺総合対策推進センター	研究員
--------	--------	-----------------	--------------	-----

個人情報法制度グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
横野 恵	ヨコノ メグム	早稲田大学	社会科学部	准教授
塚林 美弥子	ツカバヤシ ミヤコ	早稲田大学	大学院法学研究科	研究補助員
原田 香奈	ハラダ カナ	早稲田大学	大学院法学研究科	研究補助員

個人情報セキュリティグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
猪俣 敦夫	イノマタ アツオ	東京電機大学	未来科学部	教授

アプリ開発グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
坂野 哲平	サカノ テッペイ	株式会社アルム		代表取締役社長
宮澤 美穂	ミヤザワ ミホ	株式会社アルム	グループ戦略室	研究員
西川 知恵	ニシカワ トモエ	株式会社アルム	グループ戦略室	研究員
藤村 岳	フジムラ ガク	株式会社アルム	開発部	研究員
工藤 瑞紀	クドウ ミズキ	株式会社アルム	グループ戦略室	研究員
竹嶋 亮	タケシマ リョウ	株式会社アルム	開発部	研究員

コスト試算グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
星野 崇宏	ホシノ タカヒロ	慶応義塾大学	経済学部	教授

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2018年 12月1日	日本子ども虐待防止学会	岡山	50人	そだつWAの概要を説明し、アメリカの養育支援プログラム「Family Connects」についてアメリカからGoodman博士を招聘しシンポジウムを実施、その有用性について議論した。

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍・冊子等出版物、DVD等

特になし

(2) ウェブメディアの開設・運営

非公開のWebサイト「そだつWA」を構築した。URLは以下の通りである。

<https://sodatsuwa-web.allm.jp/login>

(3) 学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

特になし

6-3. 論文発表

(1) 査読付き（ 3 件）

●国内誌（ 0 件）

●国際誌（ 3 件）

- ・ Doi S, Fujiwara T, Isumi A. Development of the Intimate Partner Violence During Pregnancy Instrument (IPVPI). *Front Public Health*. 2019;7:43.
- ・ Yamaoka Y, Fujiwara T, Fujino Y, Matsuda S, Fushimi K. Incidence and age distribution of hospitalized presumptive and possible abusive head trauma of children under 12 months old in Japan. *J Epidemiol*. (in press)
- ・ Sato R, Fujiwara T, Kino S, Nawa N, Kawachi I. Pet Ownership and Children's Emotional Expression: Propensity Score-Matched Analysis of Longitudinal Data from Japan. *Int J Environ Res Public Health*. 2019;16(5).

(2) 査読なし（ 0 件）

6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

(2) 口頭発表（国内会議 0 件、国際会議 2 件）

- ・ Takeo Fujiwara, Satomi Doi, Aya Isumi (Tokyo Medical and Dental University), Prediction of intimate partner violence using administrative data on pregnancy. European Congress of Epidemiology, LYON FRANCE, 2018 July 6.
 - ・ Aya Isumi, Takeo Fujiwara (Tokyo Medical and Dental University), Hiroataka Kato, Taishi Tsuji, Daisuke Takagi, Naoki Kondo, Katsunori Kondo. Additional medical costs of Japanese older people with childhood maltreatment history: A life-course approach. ISPCAN XXII International Congress on Child Abuse and Neglect. Prague Czech, 2018 Sep 2.
- (3) ポスター発表 (国内会議 5 件、国際会議 1 件)
- ・ Takeo Fujiwara, Aya Isumi, Satomi Doi (Tokyo Medical and Dental University), Development of supporting system for pregnant women using digital devise during home-visit by public health nurse to prevent child maltreatment. ISPCAN XXII International Congress on Child Abuse and Neglect. Prague Czech, 2018 Sep 2.
 - ・ 土井理美, 伊角彩, 三瓶舞紀子, 横野恵, 藤原武男 (東京医科歯科大学). ハイリスク妊婦への家庭訪問における保健師支援アプリの活用. 第77回日本公衆衛生学会総会. 福島. 2018年10月24日.
 - ・ 伊角彩, 土井理美, 三瓶舞紀子, 横野恵, 藤原武男 (東京医科歯科大学). 妊娠期からの虐待予防を目的とした保健師支援アプリの開発. 第77回日本公衆衛生学会総会. 福島. 2018年10月24日.
 - ・ 藤原武男, 伊角彩, 土井理美 (東京医科歯科大学). 妊娠届情報で DV や虐待を予測できるか? リアルデータ解析. 第77回日本公衆衛生学会総会. 福島. 2018年10月24日.
 - ・ 山田成人, 伊角彩, 藤原武男 (東京医科歯科大学). 育児について夫や他の人に相談できない母親の産後うつリスクは高いか? 第77回日本公衆衛生学会総会. 福島. 2018年10月24日.
 - ・ 小山佑奈, 藤原武男 (東京医科歯科大学). アルコール小売店舗の減少によって児童虐待は減るのか. 第77回日本公衆衛生学会総会. 福島. 2018年10月24日.

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

- (1) 新聞報道・投稿 (0 件)
- (2) 受賞 (0 件)
- (3) その他 (0 件)

6-6. 知財出願

- (1) 国内出願 (0 件)
- (2) 海外出願 (0 件)